

「人生デザイン」とは・・・

「不況を乗り切る」あるいは「高齢・失職を乗り切る」

世間一般の「人生デザイン」の選択肢としての生活保護

「生活保護」への抵抗感はかなり薄まった状況？

「ワシら60を超えた人間は、生活保護には、やっぱり抵抗があるわな、そりや、先になつたら、生活保護にかなアカンとは思っているけど、もう少し頑張れる」と言う言葉をよく聞きます。

この言葉の中から、その人なりの、「人生デザイン」が読み取ることができるようになります。

夜間宿所・炊き出し・輪番就労・アルミ缶集め、時には現金仕事、身体が動く間は、たとえ生活保護水準以下の生活であろうと、今のまま続ける。身体がへたつてきたら、しやないから、生活保護に行く。これが、この人の今後の人生設計、というこのように思えます。

勿論、ここにあげた要素が、この人の生活のすべてを表しているわけではありません。随分、単純化した読み取りです。生活保護への抵抗感を含めて、共感する人も多いのではないのでしょうか。

しかし、最近、生活保護活用への抵抗感については、世間の風向きが変わりつつあるようです。釜ヶ崎では、釜ヶ崎夜間学校が「生活保護への手引き書（自助努力援助のための手引き書「生活保護は怖くない」）を配つ

ていますが、先日の朝日新聞（12月12日・朝刊）に、「生活保護への手引き」が掲載されました。

書き出しに曰く。『どんなに頑張っても生活できない。そんな時「最後の安全網」として生活保護があります。どんな制度か、早めに知っておきませんか』。

「生活保護・上」となっていますから、上中下の3回連載予定のようです。

夜間学校の「手引き書」は、これまで2千部以上配布していますが、朝日新聞の発行部数は全国で約八百三万部ということですから、影響力の大きさは間違いです。

全国的に、生活保護活用の促進が図られているといってもよいと思われれます。

朝日新聞の「手引き」は、毎週土曜日の生活面「人生デザイン」の連載、「不況を乗り切る」12回目としての「生活保護・上」ですから、不況期の人生デザインの選択肢として「生活保護」が取り上げられていることになりました。

不況や高齢による失職・生活難は、釜ヶ崎のことだけではなく、全国紙が、「生活保護入門」を掲載しても、決して異なる事ではないのですが、背景には、全国的な生活保護の急増があると言えます。

「文字を大きくしろ」の要望有り、検討中！

たとえば、長崎県大村市では、10月末時点の生活保護世帯が、1027世帯（451人）と、世帯数、人数とも前年同期比で10%急増しています。鹿児島市では、生活保護受給者数が記録の残る1978年度以降で最も多くなり、99年度の7213人の約2倍弱。10月の保護率（人口1000人あたりの受給者の割合）も21.79人で、全国平均13.3人（6月）を大きく上回るにいたっています。

福岡市では、3月ごろから生活保護申請者が急増したため、受給者の見込みを当初の2万9115人から3万4690人へと修正。「昨年度は2月補正（約39億円）で対応できたが、本年度は間に合わない」と判断した」として、同市としては異例の12月補正を行う状況となつています。

法的トラブルなどの相談に乗る日本司法支援センター（法テラス）のコールセンター相談窓口でも、生活保護に関連する相談が急増して、4〜10月の相談件数は、昨年同期の3倍に上つているといえます。

これまで一般的に言われていた人生デザイン、人生設計といえ、卒業・就職・結婚・子育て・退職・年金暮らしであったと思いますが、昨今は、働いて稼ぐしか選択肢がない人々の、働くこと不安定さ、経済的困窮度が高まり、多くの人々の人生設計の要素として、生活保護活用が組み込まれる時代になった、といえます。

今年は、除夜の鐘を聞きながら、百八つの煩惱と共に、生活保護への抵抗感も洗い流し、新年には新たな生活設計を描いてみませんか。

大阪市越年対策（臨時宿泊所）のお知らせ（利用期間 入所日から1月5日まで）

正確な情報は、大阪市立更生相談所、(財)労働福祉センター、若草保育園、大阪社会医療センターに設置されている看板で確認してください（本人確認に必要なもの・結核検診の実施予定日等）。

◎相談受付日 12月29・30日の2日間 両日とも午前8時30分から昼12時まで受付

◎整理券の配布 29・30日の両日とも午前5時から。

相談場所は、市立更生相談所ですが、整理券の配布場所は、市更相向かいの地下鉄出入り口北側になります。相談に行く前に、結核検診を受け、「結核検診受診カード」を持っていることが必要です。

生活保護は、無差別平等、困窮の事実に基づいて、誰でも（永住権を持つ外国人を含む）活用することが出来ます。65歳以上でなければ、あるいは病気でなければ受けられない、というのはウソです。

大阪市立更生相談所（市更相）は、阪堺線の東側、公衆便所横のガードを東に抜けて、交差点を渡ったところにある建物です。

医療センター（大阪社会医療センター）は、「ある時払いの催促無し」、借用書で受診できる医療機関です。市更相あるいは西成労働福祉センターで診療依頼券をもらってから行く必要があります。

医療センターは、センターの建物外の東側に入り口があります。

「自助努力援助のための手引き書—生活保護は怖くない」（無料）をまだ受け取っていない人は、声を掛けてください。手引き書を読んだ後は、役所で保護申請、不動産屋へ。

20歳から50歳代前半くらいまでの人は、自立支援センターを活用する道もあります。寝場所・食事を提供し、就職活動を支援する施設です。入所希望者は、大阪市立更生相談所（市更相）で相談を。